

令和8年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

実施計画書

活動団体の本事業での活動テーマ

『もったいないを活かす地域に根付いた
持続可能な価値づくり』

活動団体の活動地域：熊本県球磨郡あさぎり町

活動団体名：株式会社 あさぎり商社

中間支援主体名：株式会社 地方総研

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	株式会社 あさざり商社
活動地域	熊本県球磨郡あさざり町

専門性・強み

- # 地域商社
- # 地域に根差したネットワーク
- # 農産加工
- # ふるさと納税
- # 地域おこし協力隊との連携

団体概要

農産加工（加工場）、商品開発、販売、ふるさと納税、事業者支援（特定地域づくり事業協同組合の運営）
また、地域おこし協力隊が主体となり共創、人口対策やSDGsに関わる複数の事業を受託・展開を行っている。

- ・地域循環共生圏づくり事業
- ・脱炭素先行地域事業
- ・デジタル田園都市構想事業

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	株式会社地方総研
活動地域	熊本県内

専門性・強み

- # 地域経済分析
- # SDGs推進
- # 国際販路開拓
- # 地域活性化
- # 外部専門家との連携
- # フィールドワーク

団体概要

肥後銀行が100%出資して2025年4月に設立

- ・パーパス（存在意義）
地方の課題を解決し、豊かで持続可能な社会を実現するための知恵袋
- ・ビジョン（目指す姿）
専門人材と地域を巻き込む共創型の課題解決プラットフォーム
- ・事業内容
 - 行政・自治体向け 諸計画策定支援／各種業務受託
 - 地域課題解決 コンサルティング
 - 企業向け 組織開発／業務支援
 - 地域経済・産業・社会に関する 調査分析

活動団体と地域の紹介

活動団体の紹介：株式会社あさぎり商社



町が100%出資する地域の総合商社

➤ ありがたい姿

地域社会から信頼され、地域の人々と共に、地域産業の発展に取り組む

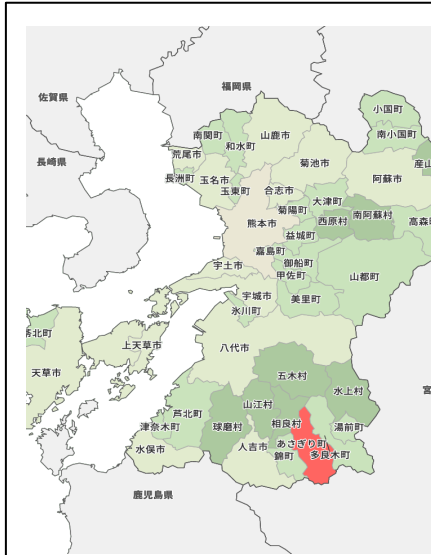
➤ 専門性

農産加工（加工場）、商品開発・販売、ふるさと納税、事業者支援
（特定地域づくり事業協同組合の運営）

➤ 活動地域

熊本県球磨郡あさぎり町

活動地域の紹介：熊本県球磨郡あさぎり町



あさぎり町は熊本県球磨郡の南部にあり、隣県の宮崎県に近い人口14,000人ほどの小さな町です。山に囲まれ町の中央を日本三大急流の一つ「球磨川」が流れています。盆地特有の内陸的気候となっており、朝晩の寒暖差を活かし、甘みのある美味しい作物が栽培されています。秋から冬の朝には、町名の由来でもある「朝霧」の絶景に出会うことができます。

活動団体の目指す地域の姿【R8当初計画】

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

もったいないを価値に変える地域

あさぎり町の日常にひそむ「気づかれていないなんてもったいない」魅力を発掘し、地域資源として活用することで、持続可能な地域経済循環を実現する。住民のシビックプライドを育み、町への愛着を深めるとともに、訪れる人々にあさぎり町の魅力を伝え、ファンを増やすことで、「帰りたくなる町」を創り出す。

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

▶ 地域内外の人材が交流できる拠点の整備

地域住民、移住者、学生、企業、行政などが共に学びあうコミュニティ形成を目指す。

▶ 人材確保と「稼ぐ仕組み」の創出

住民の町に対する誇りを再認識させ、主体的に関わるステークホルダーを確保する。また、地域資源を組み込んだビジネスモデルを構築する。

▶ 中間支援組織の設立・強化

現在活動しているあさぎり商社のメンバーが持続的に活動を継続するための中間支援組織を設立する。

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

▶ 事業のタネ①

「暮らす旅」隠れ里リトリート事務局

▶ 事業のタネ②

地域材による地域循環システムの構築

▶ 事業のタネ③

住民が気軽に集まれる場づくり

■ 地域の現状と課題

▶ 課題

- ①人口減少・少子高齢化の進行
- ②宿泊施設の不足
- ③学校統廃合による若者の流出

▶ 資源

- ①豊かな自然(朝霧、白髪岳、田園、球磨川)
- ②グリーンツーリズムの聖地
- ③あいさつが飛び交うまち

(参考) ローカルSDGs 事業の紹介

隠れ里リトリート事務局 / 「暮らす旅」あさぎり農泊サポートセンター

【概要】

地域住民にとっては当たり前の日常にこそ、訪れる人々を魅了する特別な価値がある。この価値を体験できるツアーを持続的に運営するための中間支援組織を立ち上げる。

【段階】

コンテンツとなるツアー造成に向けて取組中。

【活用している自然資本・地域資源】
あさぎり町の生活(食・農・人)
農泊施設
地域おこし協力隊卒業後の働き口



【事業により生じたor 生じそうな成果】
関係人口の創出
地域住民のシビックプライド醸成

今後の展望

ステークホルダーが協働するツアー造成と並行して、ツアー運営のための事務局立ち上げに向けた仕組みや役割分担の検討を行う。

竹の利活用による地域循環システムの構築

【概要】

地域課題である放置竹林を資源として活用するために、竹を炭化した「ポラス炭(竹炭)」を生産し、その多面的な利用方法を検証。竹林整備事業者の収入安定による事業継続を支える仕組みをつくる。

【段階】

ポラス炭の生産と販売を開始している。

【活用している自然資本・地域資源】
放置竹林
地域おこし協力隊卒業後の働き口

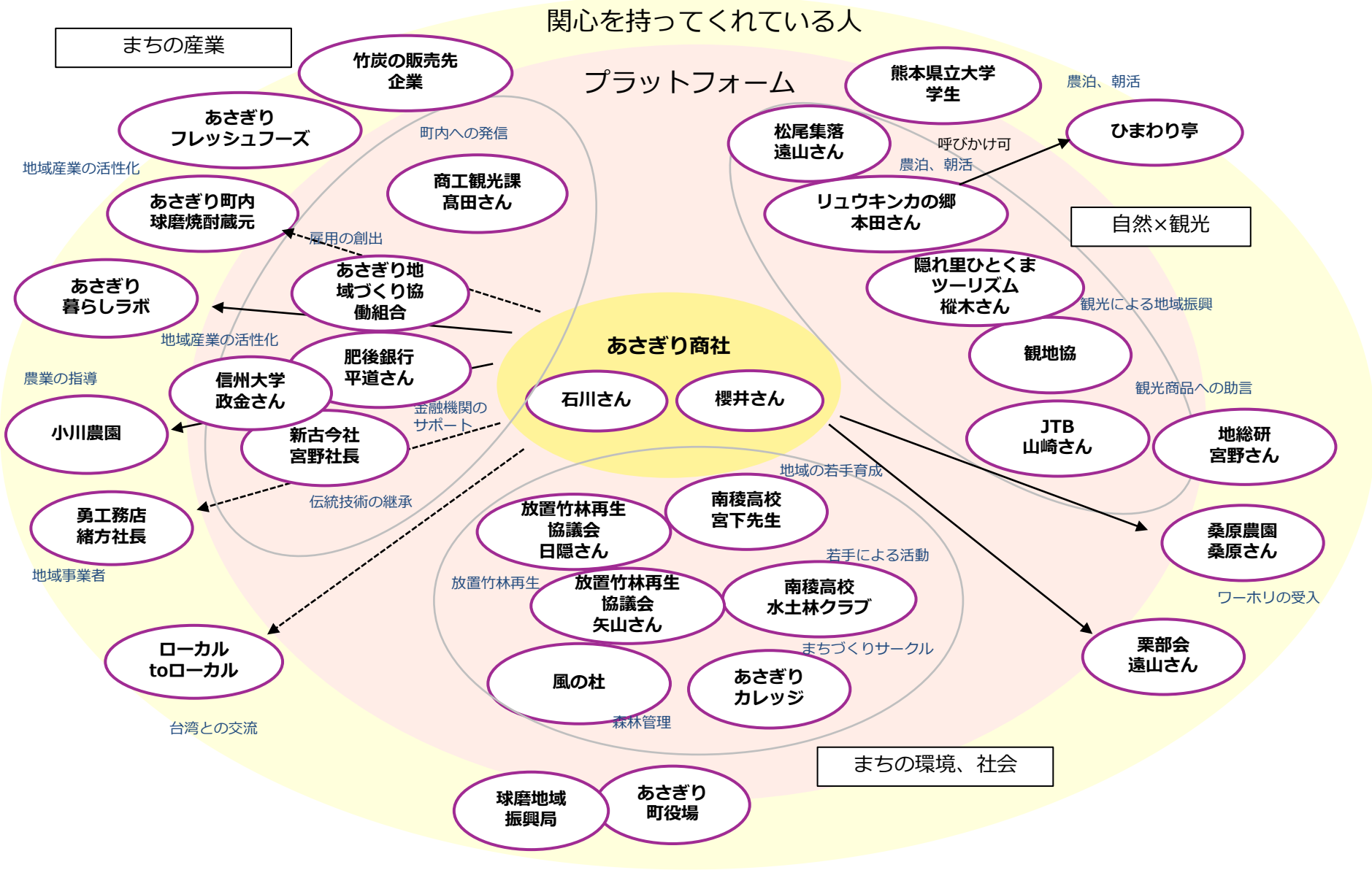


【事業により生じたor 生じそうな成果】
脱炭素(炭素固定)
放置竹林の減少と景観整備
竹の利活用を起点としたイベントの開催による地域住民の理解の促進

今後の展望

ポラス炭の販路開拓を進め、竹林整備を持続可能なものにしていく。
リトリートツアーと連携し、竹林を生かした体験型コンテンツを造成する。

(参考) 現状の地域プラットフォーム

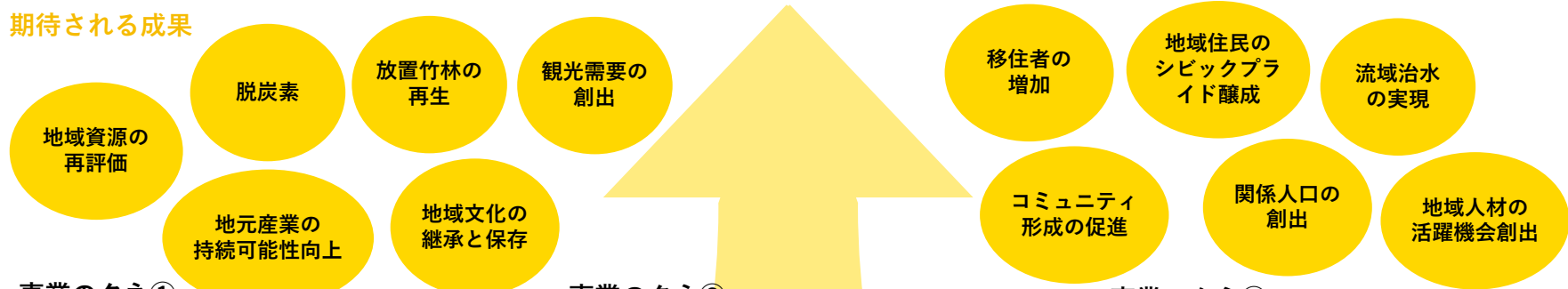


(参考) 現時点のマンダラ

あさぎり町のありたい未来

あさぎり町のもったいないを活かした地域経済循環

期待される成果



事業のタネ①

隠れ里リトリート事務局

- ・農泊の中間支援組織
- ・ツアーコンテンツの造成
- ・広報、予約管理、資源連携
- ・ツアーと農泊施設の連携

ステークホルダー

- ・隠れ里ひとくまツアーリズム
- ・松尾集落
- ・熊本県立大学
- ・人吉球磨観光地域づくり協議会

事業のタネ②

竹の利活用による地域循環システムの構築

- ・未利用資源（竹）の活用
- ・竹炭の製造・販売
- ・竹炭投入による効果検証
- ・竹炭づくりイベントの実施

ステークホルダー

- ・放置竹林再生協議会
- ・南稜高校
- ・あさぎりフレッシュフーズ
- ・竹炭の販売先企業

事業のタネ③

場づくり

- ・月1回の交流イベントの開催
- ・小学生向けサマースクールの実施
- ・焚火を囲んで星を見上げる会

ステークホルダー

- ・あさぎりくらしLabo
- ・地域おこし協力隊
- ・球磨地域振興局
- ・あさぎり町役場

経済

社会

環境

	経済	社会	環境
資源	<ul style="list-style-type: none"> ・あさぎりマルシェ ・農泊の先進地 ・球磨焼酎 ・南稜高校 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもてなし精神 ・おせっかい ・よけまん文化 ・人吉球磨協力隊ネットワーク 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊富な森林資源 ・朝霧 ・おいしい米・農作物 ・自然(白髪岳、川)
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手不足 ・後継者不足 ・若者が残れない ・地域外への資金流出 	<ul style="list-style-type: none"> ・町に滞留する目的が少ない ・イベントが少ない ・交流拠点が無い ・町をガイドできる人が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・放置竹林 ・水資源の循環 ・耕作放棄地の増加

3カ年状態目標

■ 2027年度末の状態目標

持続可能なツアー・イベント運営体制の確立

地域内の担い手が主体となってツアーやイベントを企画・運営し、継続的に実施できる体制が整う状態を目指す。そのために、運営に関わるメンバー間で定期的かつ効果的なミーティングが行われ、役割分担や意思決定の仕組みが明確に機能するようにする。また、運営を担う人材や協力者を探し出す。

■ 2026年度末の状態目標

取組めそうな事業を実際に始めてみる

前年度までの活動内容を踏まえ、新たなビジネスを創出し、事業化を図る。
形成した地域プラットフォーム活動を起点とし、検討した事業の地域での自走化を目指す。

■ 2025年度末の成果と振り返り

事業のタネに取り組み事業内容を磨き上げていく

滞在型のあさぎり町体験ツアー（正式名称は？）、森林の未利活用材活用、自然共生と連携したワーケーション、場づくりなど、事業のタネごとに分科会を立ち上げ、事業内容を磨き上げた。

今年度の状態目標に向けた取組内容【R8当初計画】

- これまでの歩み、成果や課題などを踏まえ、今後、プラットフォーム形成・運営のために、今年度優先的にチャレンジしたいアクションサイクルを記載ください。(最低3つ記載ください。)

	優先する アクションサイクル	いつまでに実現するか	実現のために何をするか	実現のために必要なこと (ヒト/モノ/カネ/仕組み/ 機能等々)
①	体制を整える	2026年6月	<ul style="list-style-type: none"> ・株主総会の場を活かし、行政へ共生圏の活動内容への理解と共感を得るためのプレゼン実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・共生圏での活動がまちづくりに不可欠な要素として位置付けてもらう(行政からの支援体制) ・事業のタネを「町の事業」へ
②	事業を生み出す	2027年3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダーと協働し、イベントを実施(ツアー・竹林) ・竹炭の試験的利用(農地) ・場づくりイベントの継続開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹炭の販売先 ・南稜高校との協働 ・場づくりイベントの開催資金
③	事業推進のためのチームをつくる	2026年7月	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業のタネごとに立ち上げた分科会継続開催 ・事業主体の共生圏に対する理解促進の場を作る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダーに共感される取組のストーリー付け

中間支援主体の支援・取組計画【R8当初計画】

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

これまでの情報提供に加え、事業計画策定・資金調達・広報戦略など事業化に向けた伴走支援を強化する。肥後銀行系シンクタンクのネットワークと経済研究所の分析力を活用し、適切な連携先やエビデンスを提供できるようになる。

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	行政を始めとするステークホルダーとの連携強化 補助金や制度活用、広報支援など、行政からのサポートが事業の安定性と信頼性を高める。また、その他のステークホルダーにも主体的な参画を促す必要がある。	役場担当課との情報共有に加え、株主総会等の場を活用し、あさぎり商社が取組む共生圏事業の重要性や意義について理解を促す。本事業の目的と、町の総合計画などに掲げる将来像や施策とあさぎり商社の取組状況と関係性を整理・可視化し、町の方針との整合性の説明を行う。あわせて、ステークホルダーに対し事業の進め方や役割分担を共有し、事業化に向けた協働について着実に合意形成を図るための対話・議論の場の設定を支援する。
②	ノウハウ提供と伴走支援 活動団体が事業を継続的に運営するには、イベント運営、資金計画、広報戦略などのスキル習得に加え、事業を推進する体制整備が重要である。	事業化に関するノウハウを提供し、専門家による助言や研修を実施する。また、事務局機能の検討やビジネスモデル設計を進め、関係者調整や情報共有を担う仕組みを整え、事業の持続可能性を高める。

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての本事業を通じた獲得目標とそのための具体的なアクション

今年度から中間支援主体となる株式会社地方総研は、民間企業としての機動力、事業構想力、プロジェクト推進力を活かし、前年度までの公益財団法人地方経済総合研究所の事業を円滑に継承する。単なる助言や調査にとどまらず、現場に深く入り込み、活動団体の隣に立ち、悩みを共有しながら解決まで伴走できる中間支援団体を目指す。具体的には、行政へのアプローチとして当社株主総会などを通じた事業説明および認知度向上のサポートを行う。また、農泊事務局事業における運営体制づくりなどを通じた調査・分析から企画立案、事業化、実行、改善までを一貫して支援する。「構想を成果に変える」「活動を継続可能な仕組みにする」ことを念頭に実践することで、地域の担い手が自走できる環境づくりに貢献する。

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

1. 地域プラットフォームの維持と発展

本事業を通じて培われたネットワークとデータ分析の知見を活用し、地域団体や事業者に適した連携先を提供することで、地域経済の循環を促進する。持続可能な事業推進のために、地域内外の支援者を巻き込みながら、プラットフォームの運営を継続するための支援を行う。

2. 事業の推進

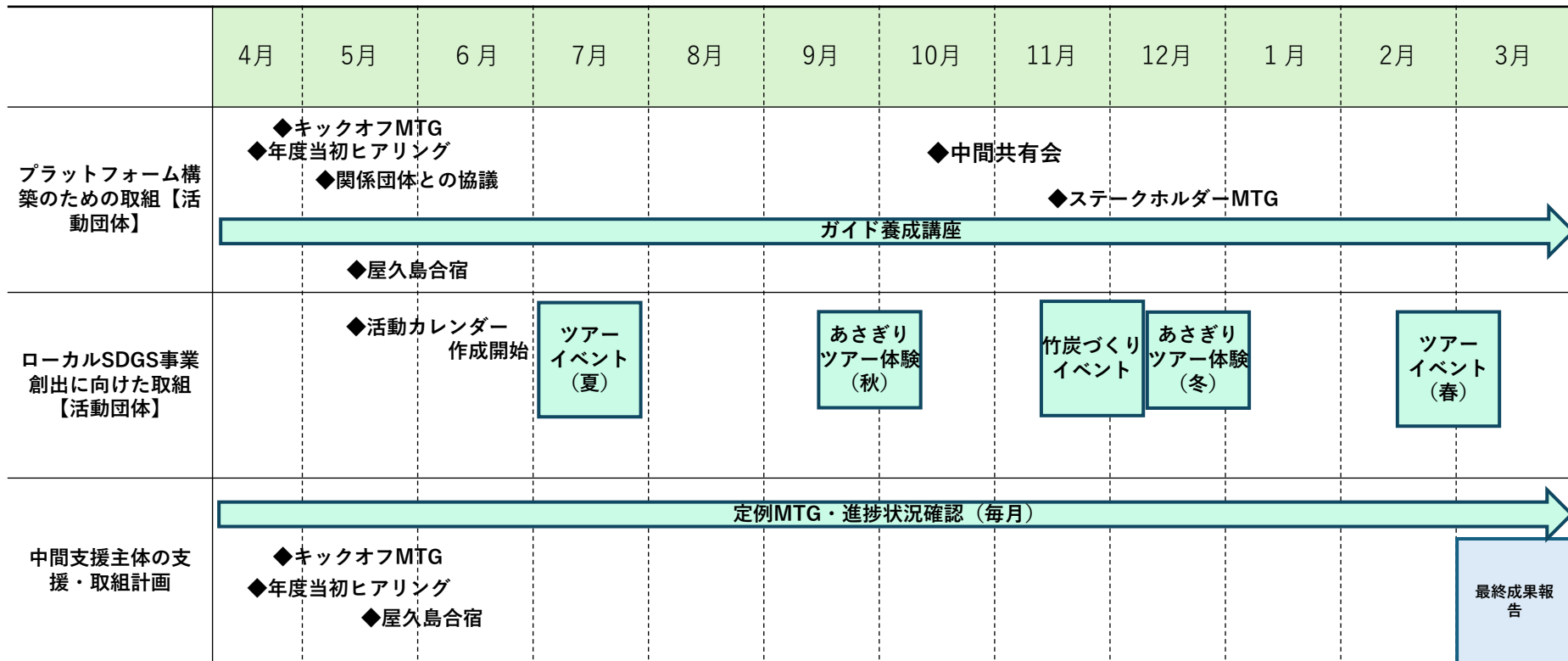
「もったいない」を生かした地域ならではの事業創出のため、自治体や地域内外のステークホルダーと協働し、事業を推進する。地域資源を活かした体験型プログラムなどのイベント開催やツアー商品等の造成に対して助言をすることにより、地域経済循環率の向上と、持続可能な地域づくりを支援する。

3. 地域住民の巻き込みと合意形成

地域で継続的に事業を発展させるために、事業終了後も地域事業者や住民との対話する場をつくる。活動のビジョンや方向性を共有することで、地域の課題解決に向けたアイデアを共創する。

活動・支援スケジュール【R8当初計画】

■スケジュール



・定期的に各ステークホルダーとのミーティングを行い、ツアー・イベントに向けての検討実施予定。